

太平洋空軍音楽隊ーアジア

不忘平和記念公園開園式典 鎮魂と友好の奏で

宮城・七ヶ宿

Aug 6, 2015

by Naoko Kurokui
374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋空軍音楽隊ーアジア ブラス・カルテットは8月初め、宮城県での戦没者慰霊と友好の演奏ツアーを終えた。

太平洋戦争末期で東京大空襲があった1945年3月10日、アメリカ軍の重爆撃機B-29の3機が相次いで墜落し、搭乗していた米兵34人全員が死亡した蔵王連邦南端の不忘山(1,705メートル)の山麓に8月2日、地元の有志たちが七ヶ宿町長老地区に整備してきた「不忘平和記念公園」が開園した。

B-29の墜落から16年後の1961年、白石市の有志たちが恩讐を越え、当時19～29歳という若さで異国の地で命を失った米兵の慰霊と永久の世界人類の平和を祈り「不忘の碑」を山頂に建立した。しかし、今では山に登って慰霊できる人も少なくなってきたことから、この歴史上の悲劇を風化させず、未来を担う子供たちに戦争の記憶を語り継ごうと、不忘の碑と3機の墜落地を一望できる場所に同公園を造る計画が進められていた。公園の敷地約12ヘクタールと整備資金は、戦争直後で困窮を極めていた少年時代にアメリカからの食糧等の援助に救われたという同市在住の高橋良夫さんが、アメリカへの恩返しの一環として提供した。

公園には、山頂にある「不忘の碑」の約3分の2の同じ形状の碑(16トン)と「世界平和」、キャロライン・ケネディ駐日米国大使のメッセージ「平和と友情をもたらすために、一人一人が何をできるか自分に問いかける事を望みます」と刻まれた碑などが配置され、亡くなった米兵の数と同じ34本のハナミズキが植樹された。今後、有志からの寄付を募り公園を囲むように3,000本の桜も植えられる予定だという。「念願の夢が叶えられて感無量。アメリカと日本の友好の架け橋になってくれたら嬉しいです。今日の開園は始まりの日。ハナミズキや桜の花見に人々が集う憩いの場所になってほしい」と高橋さんはこみ上げる涙をこらえながら言葉を詰まらせた。



TAPSを響かせる太平洋空軍音楽隊

式典には、地元の住民や米軍・自衛隊幹部を含む日米の関係者約500人が出席。式典演奏を太平洋空軍音楽隊と陸上自衛隊東北方面音楽隊が行った。公園の開園式に先立って行われた「世界平和」の祈念碑除幕式で、太平洋空軍音楽隊のレベッカ・アレン上級空兵が米国国歌を斉唱し、同ブラス・カルテットが鎮魂のトランペットや「さくら・さくら」の曲を会場に響かせた。

公園近くの会場で行われた開園式典では、ブラス・カルテットが「ハナミズキ」や「サマー・タイム」など、このたびの平和記念公園の完成にちなんだ曲を披露し、式典のフィナーレには陸上自衛隊東北方面音楽隊と合同で「上を向いて歩こう」を盛大に奏で、会場に盛んな拍手を沸かせた。

音楽隊ブラス・カルテットのグループリーダー、トム・サリアーズ軍曹は「今回の慰霊と平和記念公園の開園式は、特別に感動的な式典でした。遠い過去の戦いで最期を遂げたアメリカ兵の魂を不忘山を望む美しい場所で慰めるために、あらゆる努力を重ねて来られた日本の人々の人道的な配慮に深く感銘を受けました。厳粛かつ荘厳な式典に相応しいプロとしての演奏に真心を込め、すべ



不忘山を望む公園で除幕された「世界平和」の碑





仙台・若林区の仮設住宅で日本の「ハナミズキ」の曲を披露したメンバーたち

の支え」「はるばるこの場所へ励ましに来てくれて、とても嬉しいです。元気がでます」と述べ、温かな笑顔を見せた。音楽隊ブラス・カルテットのメンバーたちは日米の名曲を披露し、また自分の出身地を話して自己紹介したり、ユーモアを交えたトークで会場の笑いを誘った。コンサートを終え、グループが乗ったバスが出発すると、バスの陰が見えなくなるまで地元の人々は「ありがとう」と手を振り続けた。

ての関係者の期待に一心に応えたいと思いました」と語り、また、陸上自衛隊東北方面音楽隊と日米両国の友好を象徴する合同演奏ができた喜びを語った。

同グループは翌日3日、仙台市若林区卸町5丁目の仮設住宅を訪れ、東日本大震災の津波で被災した約50世帯の人々が生活する場所で復興の願いを込めた慰問コンサートを行い、交流を図った。音楽隊の訪問を楽しみにしていたという住民の一人、石塚晶子さんは、震災直後の7ヶ月間、車の中での生活した当時の様子を語る。「今も、人とのつながりが心



太平洋空軍音楽隊は、震災後毎年、宮城県の各地を訪れ、慰問の演奏活動を続けている。音楽に聴き入る人々の表情は皆笑顔だ。「音楽を通じて楽しい時間を共有し合い、人々を力づけることが我々の務め」とメンバーのリチャード・マクマスター軍曹は語る。

音楽のメロディが一人一人の心の琴線に触れる時、懐かしい記憶と今という掛け替えのない時を共有している人々との新たな記憶が刻まれる。音楽隊のメンバーたちは、演奏を通じて、生まれ育った場所、言葉、文化や境遇の違いを越えて、今を大切に生きる人々の心をひとつにし、未来を共に切り開いていく絆を結ぶ“音楽の力”を多くの人に届けた。

